

# 2010

## The Second quarter business report

### 株主通信

第15期 第2四半期決算のご報告

2010.4.1 2010.9.30

#### 株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日	
定時株主総会	毎年6月	
期末配当基準日	3月31日	
中間配当基準日	9月30日	
上場証券取引所	大阪証券取引所 JASDAQスタンダード	
公告方法	電子公告 (当社ホームページに掲載) [アドレス] <a href="http://www.broadmedia.co.jp/">http://www.broadmedia.co.jp/</a> ただしやむを得ない事由により電子公告ができないときは、 日本経済新聞に掲載して行います。	
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社	
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部	
	[郵便物送付先]	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
	[電話お問い合わせ先] (フリーダイヤル)	☎0120-288-324
取次所	株主名簿管理人取次所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店	特別口座管理機関取次所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店



## Broadmedia



ブロードメディア株式会社

〒107-0052 東京都港区赤坂8-4-14 青山タワープレイス6F



ブロードメディア株式会社

証券コード:4347

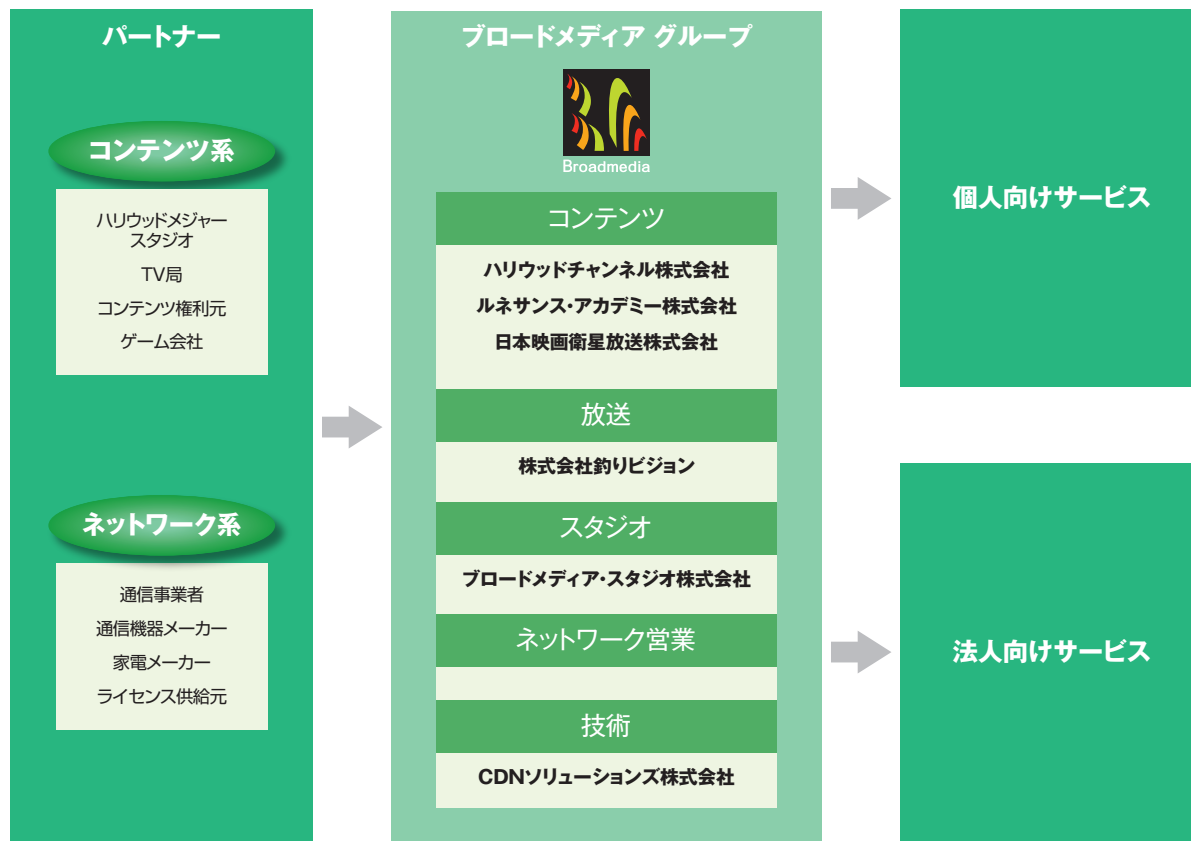
#### CONTENTS

- 01 ブロードメディアビジネスモデル
- 02 トップインタビュー
- 05 部門別営業の概況
- 07 トピックス
- 11 四半期連結財務諸表(要約)
- 13 連結決算ハイライト
- 14 会社データ

## 強み

「技術プラットフォームを持つコンテンツ流通事業者」として、「コンテンツの調達能力」と、「それを安定的にかつ高品質で配信する技術」の双方を併せ持つ企業は、業界内でも稀有な存在であり、それが強みになっています。

### ブロードメディアグループのビジネスモデル概要



## 既存事業が健闘する中で、新規事業が確実に収益化するように努力を継続します。

代表取締役社長 橋本 太郎



### Q1 当上期の成果と通期の見通しについてお聞かせください。

当上期の業績は、おかげさまで期初の予想を大幅に上回る増収増益となりました。かねてより話してきたことですが、複数の新規事業の立ち上げを行うことから、今期は相当規模の先行費用が発生します。したがって、特に当上期は前年度と比較して厳しい決算を予想していました。それが一転して好決算となったのは、ネットワーク営業とコンテンツの2つの既存事業が、予想を超える成果をあげてくれたからです。

結果として、当上期の連結業績は、売上高69億60百万円（前年同期比34.7%増）、営業利益4億98百万円（前年同期比47.3%増）、経常利益5億56百万円（前年同期比54.3%増）、四半期純利益3億68百万円（前年同期比30.7%増）となりました。

既存事業の健闘による増収増益は、それ自体喜ばしいことですが、それ以上に新規事業の費用を吸収して、通期でも増収増益が実現できる可能性を高めてくれました。ただ

そうは言っても、まだわずか半年間の上ブレにすぎず、新規事業の先行費用が発生している状況に変わりはありません。下期においても、大胆に攻める部分と慎重に対処する部分のバランスを考えながら、先般上方修正した通期の業績予想を達成できるように頑張ります。

## Q2 今期から開示セグメントを変更した経緯や目的についてお話しください。

昨年までの「コンテンツサービス」「技術サービス」「ネットワーク営業」の3つの事業セグメントの数字をご覧になっていた方にはご理解いただけると思いますが、当社の売上高の7割を「コンテンツサービス」が占めている状況でした。「コンテンツサービス」には、複数の事業が含まれており、それぞれが同種同根であり類似性が高いにしても、株主の皆様や投資家から見ると実態がわかりにくくなっていったように思います。そういった意識を前々から持っていました。それが第1の理由です。

一方で、さまざまな事業を大きな組織として統合していたことによって、意思疎通の迅速化や、コストの大幅削減が実行できました。セグメントと組織は違いますが、業績の責任を担うという意味において、それが統合されていることによってのみ実現できたことがあったと思います。そういう意味で効率経営を目的にした大セグメントの役割は、一応相当の成果を出したと考えています。

したがって、ここからは経営効率というよりも、よりわかりやすい開示を中心に考える時期が来たかと判断しまし

た。これが第2の理由です。ちょうどそういうタイミングで会計ルールの変更があり、その「経営の責任においてよりわかりやすい開示を心がける」という趣旨に基づいて、「コンテンツサービス」を3つにセグメント分割いたしました。

具体的に言うと、既存事業としての下支えの役割を担っている「スタジオ」・「放送」という子会社で行っている事業を、それぞれセグメントとして分離独立させ、残りをブロードメディア本体の主たる責務であるデジタルコンテンツとその配信という融合分野として新たに「コンテンツ」と命名し、より積極的に業績開示を行うことにしました。

## Q3 中長期の目標についてお聞かせください。

まず、今期から分類した5つのセグメントについては、それぞれに課題や目標があります。

- ・「コンテンツ」は、T's TV、モバイル、教育等を持続的に成長させることです。
  - ・「放送」は、BSデジタル放送への参入により事業規模を拡大させることです。
  - ・「スタジオ」は、国内外の主要コンテンツ事業者との連携をさらに強化することです。
  - ・「技術」は、映画館向け配信の拡大を含む新たな技術サービス基盤を確立することです。
  - ・「ネットワーク営業」はデジタルコンテンツに必要なインフラの普及をさらに促進することです。
- こうした課題や目標をクリアしていくことが、これから

の当社の成長にそのままつながります。

当社はこれまでの5年間、第二の創業期として事業の質的転換を図ると同時に、M&Aや新規事業開発により事業構造を改革してきました。これからの5年間において、2011年予定の「情報通信法（仮称）」施行までに成長基盤を確立させ、その後コンテンツサービスの持続的な成長と技術サービスの進化を加速させることで、売上高と営業利益を増加させていくことを中長期の目標としています。

## Q4 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

企業経営において、基礎収支となる既存事業の収支が黒字であることは極めて重要です。基礎収支が黒字であるからこそ、未来のために挑戦することができるし、今行うべきことが実行できます。だからこそ当社は挑戦し、行うべきことを実行してまいります。

過去数年の歳月をかけて事業の質的な転換を実現した結果、社内の雰囲気が大きく変わったと思います。そういう意味では、第二の創業期を経て、当社は生まれ変わったと最近しばしば感じます。今後、更なる努力の継続によって、この思いを確信に変えていきたいと思っています。

前期の再びの黒字化に続き、今期の増収増益が明確な



目標となったことで、株主の皆様への適切な情報発信と利益還元は、より重要な当社の経営課題となっています。残念ながら、当面の利益還元については、旺盛な資金需要に備えるために内部留保を優先させていただく必要があり、現在の当社の実力でいえることは限定的です。それでも、やれることは是非やっていきたいと思っています。

株主の皆様におかれましては中長期的な視点で当社の将来性にご期待いただき、今後とも一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

## コンテンツ

### ■ 事業・サービス内容

- ホームエンタテインメント
  - ・テレビ向け動画配信サービス「Ts TVレンタルビデオ」
- 映像サービス
  - ・PC向け動画配信サービス「クラビット・アリーナ」
- CS放送会員サービス
  - ・「Club iT」
- モバイルサービス
  - ・「ハリウッドチャンネル」
  - ・その他
- 教育サービス
  - ・ルネサンス高等学校
- その他
  - ・ナショナルジオグラフィック事業
  - ・「みんなのフィットネス」

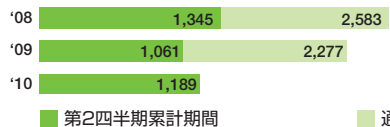
### ■ 売上高構成比



### ■ 売上高

1,189百万円 (前年同期比 12.1%増)

### ■ 売上高の推移 (単位: 百万円)



### ■ 営業の概況

売上高は、ルネサンス・アカデミー株式会社が連結子会社となったこと等により、前年同期と比べ12.1%増加し、1,189百万円となりました。

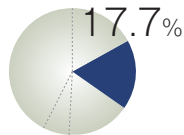
営業利益は、テレビ向け動画配信サービス「Ts TVレンタルビデオ」の費用の先行を、上記増収やPC向け動画配信サービスの収益改善等で補ったことにより、前年同期と比べ24.0%増加し、275百万円となりました。

## 放送

### ■ 事業・サービス内容

- 釣り専門チャンネル
  - ・「釣りビジョン」

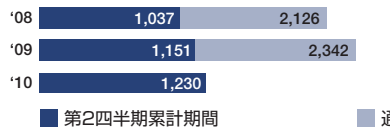
### ■ 売上高構成比



### ■ 売上高

1,230百万円 (前年同期比 6.9%増)

### ■ 売上高の推移 (単位: 百万円)



### ■ 営業の概況

売上高は、視聴可能世帯数の伸びが好調に推移していること等により、前年同期と比べ6.9%増加し、1,230百万円となりました。

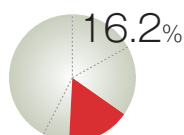
営業利益は、売上が好調に推移したものの、販売費および一般管理費が増加したことにより、前年同期と比べ13.1%減少し、81百万円となりました。

## スタジオ

### ■ 事業・サービス内容

- ブロードメディア・スタジオ
  - ・制作事業・番組販売事業・映画配給事業

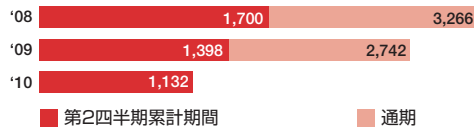
### ■ 売上高構成比



### ■ 売上高

1,132百万円 (前年同期比 19.0%減)

### ■ 売上高の推移 (単位: 百万円)



### ■ 営業の概況

売上高は、制作事業の受注の減少や番組販売事業において前年同期にあった大型受注がなかったこと等により、前年同期と比べ19.0%減少し、1,132百万円となりました。

営業利益は、制作事業および番組販売事業が上記減収により減益となったものの、映画配給事業の収益が改善したことにより、前年同期と比べ2.0%増加し、13百万円となりました。

## 技術

### ■ 事業・サービス内容

- CDNサービス
- その他

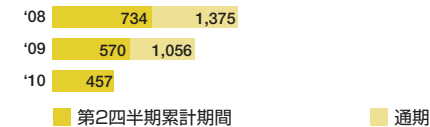
### ■ 売上高構成比



### ■ 売上高

457百万円 (前年同期比 19.7%減)

### ■ 売上高の推移 (単位: 百万円)



### ■ 営業の概況

売上高は、モバイル向け動画配信サービス等の新たなサービスの提供を行ったものの、長引く不況による顧客企業の経費削減や価格の引き下げ要請等により、前年同期と比べ19.7%減少し、457百万円となりました。

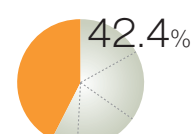
営業利益は、上記減収の影響により、前年同期と比べ21.8%減少し、13百万円となりました。

## ネットワーク営業

### ■ 事業・サービス内容

- ISPサービス販売
- 携帯電話サービスの取扱い
- ブロードバンド回線販売

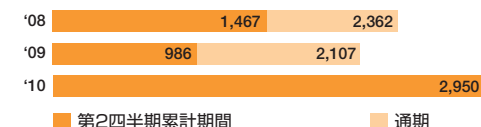
### ■ 売上高構成比



### ■ 売上高

2,950百万円 (前年同期比 198.9%増)

### ■ 売上高の推移 (単位: 百万円)



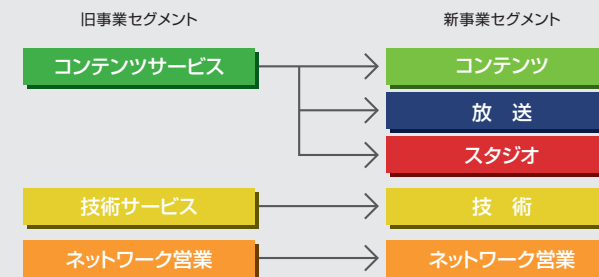
### ■ 営業の概況

売上高は、前第3四半期より開始したISPサービスの販売が好調に推移していること等により、前年同期と比べ198.9%増加し、2,950百万円となりました。

営業利益は、上記増収により、115百万円（前年同期は6百万円の営業損失）となりました。

### 事業セグメントの変更について

当期から「セグメント情報等の開示に関する会計基準」が適用されたことを契機に、当社グループの事業展開をより明瞭に開示するために、従来の「コンテンツサービス」「技術サービス」「ネットワーク営業」の3つのセグメントを、「コンテンツ」「放送」「スタジオ」「技術」「ネットワーク営業」の5つの報告セグメントに変更いたしました。



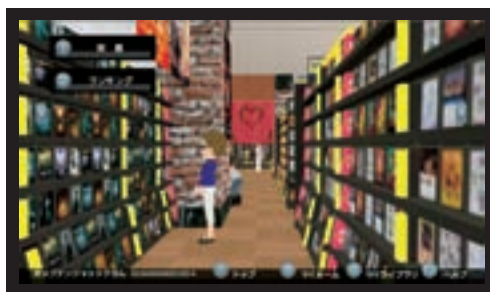
※「コンテンツ」「放送」「スタジオ」の各セグメントは前期まで「コンテンツサービス」として1つのセグメントになっていたため、上記推移のグラフにおいては分離した場合の想定値と比較しております。

content  
コンテンツ

## 「T's TV レンタルビデオ」サービスの開始

### T's TV レンタルビデオ

2010年7月30日より、インターネット対応デジタルテレビ向け動画配信サービスを開始いたしました。



実際のお店で楽しみながら作品を選んでいただくような、バーチャルなレンタルビデオショップです。サーバ上でDVDファイルを再生することにより、字幕・音声切替えやメニューの表示、チャプター切替え等のDVDが持っている様々な機能をそのまま利用することができる、次世代のビデオ・オン・デマンド（VOD）サービスです。

### 「趣味の部屋」 & 「キッズルーム」



バラエティルームには、お部屋ごとに異なるテーマで集めた作品をご用意しており、様々なお客様の趣味嗜好やご要望に合った作品を、直感的に選んでいただけます。

### サービス内容の充実

#### 国内の主要メーカーに対応

10月27日より、ソニー「BRAVIA」が、シャープ「AQUOS」・東芝「レグザ」に加えて正式対応開始となり、現在国内のテレビ販売台数の7割以上に対応しております。

#### 今後のコンテンツ配信予定

11月中旬より、松竹株式会社および株式会社ソニー・ピクチャーズエンタテインメントより、作品提供を受ける契約を締結しております。12月には新たに複数のハリウッドメジャースタジオと契約を締結する予定であり、今後も配信本数を増やしてまいりますのでご期待ください。



<http://t-s.tv/>



本夏公開された、アンジェリーナ・ジョリー主演の大ヒットアクション・サスペンス映画『ソルト』を、ブルーレイ&DVDの一般発売と同時である11月24日より「T's TVレンタルビデオ」で配信開始いたしました。

© 2010 Columbia Pictures Industries, Inc. and Beverly Blvd LLC. All Rights Reserved.

● technology  
技術

## デジタルコンテンツ配信技術の進歩

### デジタルシネマ向けインターネット配信

「ブロードメディア®CDN for theater」を開始いたしました。

従来の映画配給では、公開館数に合わせたフィルムの複製が必要でしたが、この技術により一般のインターネット回線を利用して大容量のデータを複数の映画館に配信することが可能になり、フィルムの制約のない上映ができるようになりました。

導入例：渋谷「シネマライズ」にて7月3日より劇場公開

#### 「ガールフレンド・エクスペリエンス」

長尺の映画本編を一般インターネット回線で配信する日本初のケースとなりました。



©2009 2929 Productions LLC, All rights reserved.

### 携帯端末向け動画配信ASPサービス

既存3キャリアの携帯電話端末に加え、iPhone、iPad、iPod touch向けの動画配信サービスを開始いたしました。

1つの元動画ファイルを各種端末に合わせてサーバで自動認識し、最適な動画ファイルに変換して配信するサービスです。

これまで行っていた再生能力に合わせて複数の動画ファイルを準備する手間が省け、簡単に動画配信が行えるようになりました。



● studio  
スタジオ

## 2010年上期の劇場公開作品とDVD

### 映画配給事業

4月24日公開「フェーズ6」



©MIMVII by PARAMOUNT VANTAGE, A Division of PARAMOUNT PICTURES CORPORATION All Rights Reserved.

6月26日公開「ザ・ロード」

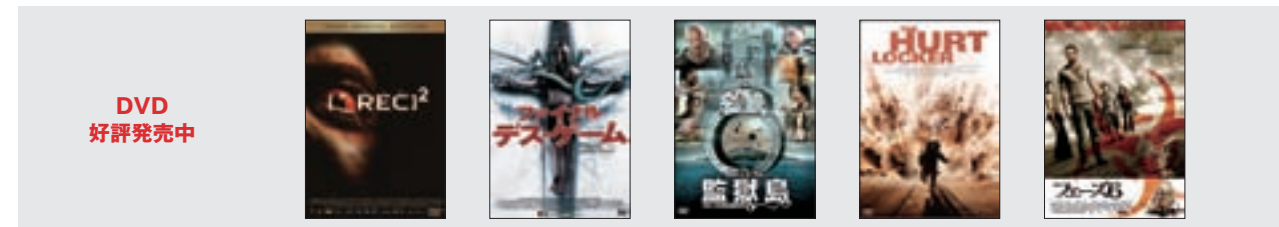


8月7日公開「フローズン」



©2009 FROSTBITE FEATURES, INC. All Rights Reserved.

9月25日公開「超強台風」



● broadcast  
放送

## 「釣りビジョン」の今後の展開

### 「釣りビジョン」2012年よりBSデジタル放送開始

株式会社釣りビジョンが放送配信しております「釣りビジョン」が、10月19日総務省よりBSデジタル放送にかかわる委託業務の認定を受け、2012年より放送を開始することとなりました。

- ・釣りに関する広範なジャンルをカバー
- ・日本唯一の釣り専門チャンネル
- ・CS放送・CATV契約数330万世帯
- ・高い番組自社制作率



## 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 2010年9月30日現在	前連結会計年度末 2010年3月31日現在	
[資産の部]			
POINT 1	流動資産	6,170,358	5,765,961
POINT 2	固定資産	3,399,926	3,559,233
	有形固定資産	501,023	518,023
	無形固定資産	678,856	536,602
	投資その他の資産	2,220,047	2,504,606
	資産合計	9,570,285	9,325,194
[負債の部]			
POINT 3	流動負債	2,510,429	2,174,273
	固定負債	386,305	422,170
	負債合計	2,896,734	2,596,444
[純資産の部]			
	株主資本	6,695,935	6,327,160
	資本金	2,666,633	2,666,633
	資本剰余金	2,270,490	2,270,490
	利益剰余金	1,758,844	1,390,043
	自己株式	△32	△7
	評価・換算差額等	△381,263	181
	少数株主持分	358,878	401,407
POINT 4	純資産合計	6,673,550	6,728,749
	負債純資産合計	9,570,285	9,325,194

## 四半期連結損益計算書

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 2010年4月1日～ 2010年9月30日	前第2四半期連結累計期間 2009年4月1日～ 2009年9月30日	
POINT 5	売上高	6,960,710	5,168,353
	売上原価	4,578,282	3,005,595
	売上総利益	2,382,428	2,162,757
	販売費及び一般管理費	1,883,514	1,824,107
POINT 6	営業利益	498,913	338,650
	営業外収益	86,181	73,639
	営業外費用	28,595	51,571
POINT 7	経常利益	556,500	360,718
	特別利益	1,003	55,627
	特別損失	36,679	65,281
	税金等調整前四半期純利益	520,824	351,064
	法人税等合計	115,841	37,062
	少数株主損益調整前四半期純利益	404,983	—
	少数株主利益	36,182	31,774
POINT 8	四半期純利益	368,800	282,227

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

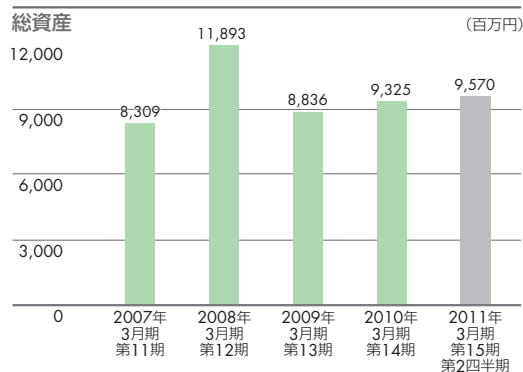
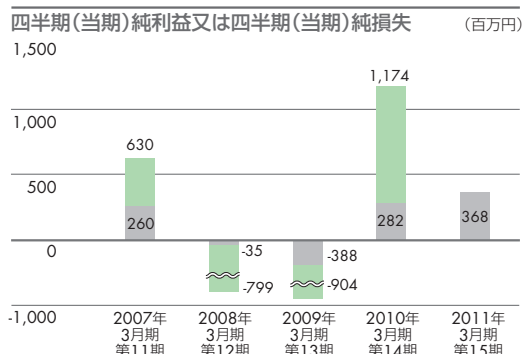
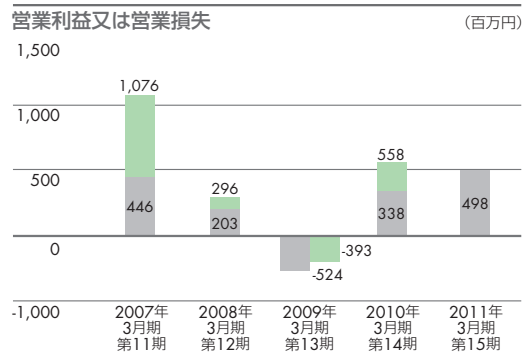
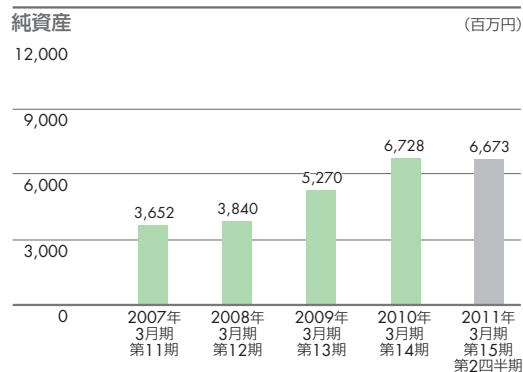
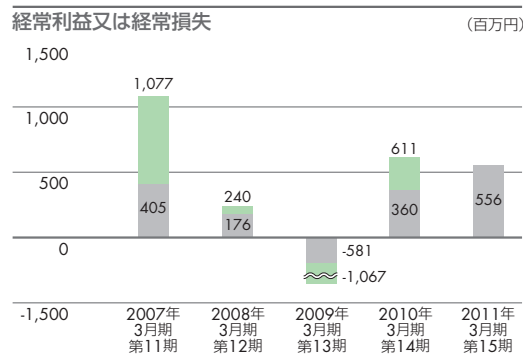
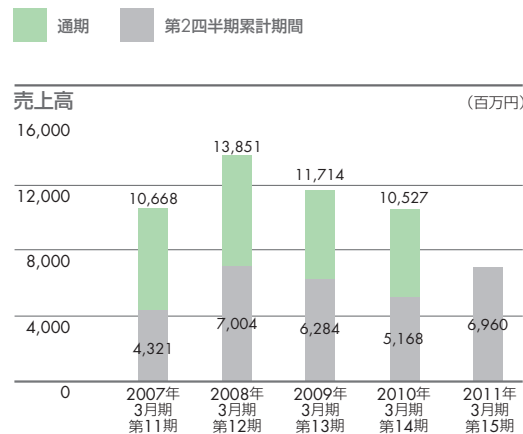
	当第2四半期連結累計期間 2010年4月1日～ 2010年9月30日	前第2四半期連結累計期間 2009年4月1日～ 2009年9月30日	
POINT 9	営業活動による キャッシュ・フロー	594,659	672,181
POINT 10	投資活動による キャッシュ・フロー	△509,185	△248,909
POINT 11	財務活動による キャッシュ・フロー	8,246	△511,449
	現金及び現金同等物に 係る換算差額	△109	△319
	現金及び現金同等物の 増減額（△は減少）	93,610	△88,495
	現金及び現金同等物の 期首残高	2,602,103	1,345,105
	現金及び現金同等物の 四半期末残高	2,695,714	1,256,609

## 四半期連結財務諸表(要約)

## POINT

- 流動資産**  
流動資産は、受取手形及び売掛金が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ404百万円（7.0%）増加いたしました。
- 固定資産**  
固定資産は、時価評価に伴う投資有価証券の減少等により、前連結会計年度末に比べ159百万円（4.5%）減少いたしました。
- 流動負債**  
流動負債は、買掛金が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ336百万円（15.5%）増加いたしました。
- 純資産合計**  
前連結会計年度末に比べて55百万円（0.8%）減少いたしました。これは四半期純利益368百万円を計上したものの、有価証券評価差額金の減少によるものです。これにより自己資本比率は66.0%となりました。
- 売上高**  
「スタジオ」及び「技術」が減収となったものの、「コンテンツ」及び「ネットワーク営業」が増収となったことにより、前年同期と比べ1,792百万円（34.7%）増加いたしました。
- 営業利益**  
「放送」が減益となったものの、「コンテンツ」及び「ネットワーク営業」が増益となったことに加え、全社的な販売費及び一般管理費を削減したことにより、前年同期と比べ160百万円（47.3%）増加いたしました。
- 経常利益**  
営業利益の計上により、前年同期と比べ195百万円（54.3%）増加いたしました。
- 四半期純利益**  
資産除去費用等の特別損失を計上したものの、経常利益の増益により、前年同期と比べ86百万円（30.7%）増加いたしました。
- 営業活動によるキャッシュ・フロー**  
税金等調整前四半期純利益を520百万円計上したこと等により、営業活動によるキャッシュ・フローはプラス594百万円となりました。
- 投資活動によるキャッシュ・フロー**  
ソフトウェア等固定資産の取得や子会社株式の追加取得を行ったこと等により、投資活動によるキャッシュ・フローはマイナス509百万円となりました。
- 財務活動によるキャッシュ・フロー**  
短期借入を実施したこと等により、財務活動によるキャッシュ・フローはプラス8百万円となりました。

# 13 連結決算ハイライト



# 14 会社データ

(2010年9月30日現在)

## 会社概要

社名 ブロードメディア株式会社  
 英文社名 Broadmedia Corporation  
 設立 1996年9月5日  
 資本金 2,666,633千円  
 従業員 77名  
 インターネットホームページ  
<http://www.broadmedia.co.jp/>

## 取締役および監査役

代表取締役社長 橋本 太郎  
 取締役 久保 利人  
 取締役 中村 大伸  
 取締役 植村 保彦  
 取締役 久松 龍一郎  
 取締役 嶋村 安高  
 常勤監査役 浦沢 武士  
 監査役 土橋 康成  
 監査役 白石 文人  
 監査役 北谷 賢司

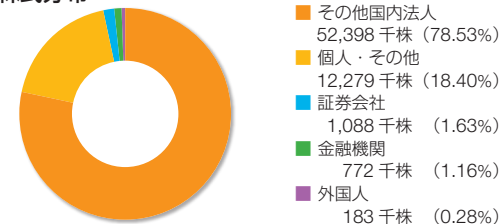
※ 浦沢武士、白石文人および北谷賢司は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

## 株式の状況

発行可能株式総数 128,000,000株  
 発行済株式の総数 66,723,516株  
 株主数 5,092名

※ 上記発行済株式の総数には自己株式232株を含んでおります。

## 所有者別株式分布



## 大株主

株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
SBBM株式会社	16,200	24.28
SBIエンタテインメントファンド2号	12,808	19.20
SBIホールディングス株式会社	9,564	14.33

## 主な子会社



**ブロードメディア・スタジオ株式会社**  
<http://www.bmstd.com/>  
 外国映画および外国テレビシリーズのテレビ放映権の販売、日本語版制作(字幕・吹替)、DVDビデオの権利仕入・発売・プロモーション、劇場配給、映画宣伝等をしております。  
 設立 2000年8月  
 所在地 東京都中央区



**ハリウッドチャンネル株式会社**  
<http://www.hollywood-ch.com/>  
 携帯電話向け映画情報提供。映画情報やハリウッドの最新ニュースを配信しております。また、待ち受け画像や着メロだけでなく、海外ドラマやアジア情報など、ハリウッドチャンネル独自のコンテンツも数多く掲載しております。  
 設立 2003年4月  
 所在地 東京都中央区



**CDNソリューションズ株式会社**  
<http://www.cdn-sol.co.jp/>  
 日本における「アカマイ」の中心的な販売代理店として活動すると共に、コンテンツ配信およびアプリケーション高速化サービスをお客様のニーズや環境に合わせて最適な形でご提供しております。  
 設立 2001年4月  
 所在地 東京都港区



**ルネサンス・アカデミー株式会社**  
<http://www.r-ac.jp/>  
 全国広域通信制・単位制普通科高校「ルネサンス高等学校」を運営しております。様々な専門スクールや企業と連携し、新しいタイプのネット教育を推進しております。  
 設立 2005年10月  
 所在地 東京都中央区



**株式会社釣りビジョン**  
<http://www.fishing-v.jp/>  
 CSデジタル衛星放送、ケーブルテレビ局における「釣りビジョン」の放送・配信、番組の制作および販売をしております。  
 設立 1998年3月  
 所在地 東京都新宿区